



World Food Programme

THE 2020
NOBEL
PEACE
PRIZE
LAUREATE

飢餓から救う。未来を救う。

SAVING
LIVES
CHANGING
LIVES



© WFP/Hussam Al Saleh

自身も両親を失いながらも、今はシリア内戦下の学校に給食を届ける NPO で働く彼女のように、国連 WFP の活動は多くのパートナーに支えられています。

国連の食料支援機関

国連WFPニュース

Feb. 2021 Vol.64

ノーベル賞平和賞受賞のその先へ、
イノベーション・アクセラレーターから食料支援の未来が加速する

ノーベル賞平和賞受賞のその先へ、 イノベーション・アクセラレーターから食料支援の未来が加速する

これまでの皆さまからのご支援があり、国連WFPは2020年のノーベル平和賞を受賞しました。その賞金については、過去からの国連WFPの活動で殉職した職員のための基金、そして未来に向けて、食料支援の効率化を図る「WFPイノベーション・アクセラレーター」拡充のための基金に充てられます。

WFPイノベーション・アクセラレーター・SDGs達成に向けたプラットフォームの1つ

もしかすると多くの支援者の皆さまには聞き慣れない言葉かも知れませんが、WFPイノベーション・アクセラレーターは、飢餓の撲滅に大きなインパクトをもたらすような技術開発イノベーションの実現を支援するために、2015年に設立されました。本拠地はドイツのミュンヘンに置かれていま

す。現在テクノロジーは急速に発展し、私たちの世界や生活を大きく変えてきていますが、人道支援の分野にもその成果が取り込まれています。例えば人工知能(AI)、ブロック・チェーン、ロボット工学などは、人道支援を効率的・効果的に実施するために活用が出来る。実際に利用が始まっています。WFPイノベーション・アクセラレーターには、その流れを加速することが期待されています。

イノベーション実現までの道のり
WFPイノベーション・アクセラレーターでは、スタートアップと

呼ばれるベンチャー企業やグループなど、様々な領域の技術的なアイデアを持つ人たちに提案をしてもらう「ピッチ・イベント」を開催しています。ここでは「イノベーション・ブートキャンプ」という、アイデアを実現するために必要な、課題の掘り下げを支援するワークショップを提供し、これまでに260以上のチームが参加しました。

そこで選抜されたチームは、10万ドルの資金と専門家によるアドバイス、更に6か月の間、国連WFPの実際の現場でのテストの機会が提供されます。80以上のチームがこの「スプリント・プログラム」に参加しましたが、そのうち11の事業が「スケールアップ・プロジェクト」として、更なる事業展開に進んでいます。



© WFP



ニジェールでのドローンを使用した緊急支援対応の実験。
2019年にモザンビークを襲ったサイクロン・イダイの支援現場でも活用された。

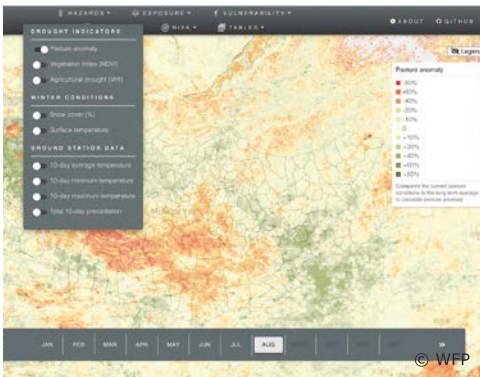
食料支援の現場を変えるイノベーション事例

支援記録の電子化「SCOPE」 母と子を救う「CODA」

「スケールアップ・プロジェクト」として既に事業展開されているものとして、「CODA」があります。従来は世帯別の食料支援や栄養の記録を冊子で管理していましたが、しかし記録ミスが発生したり、支援状況を国ごとに比較・共有したりするには不向きでした。

この状況を変えるために、現場の端末で直接記録を入力し、クラウド上でデータを管理するプラットフォーム「SCOPE」を導入するとともに、生体認証を実装した「SCOPEカード」を配布し、個人の照合を容易にしました。

更に「SCOPE」を拡張する「CODA」により個人別の健康情報を記録することで、支援を受ける母子の栄養・健康状態を、現場の職員や協働するヘルスワーカーが管理出来るようになりました。また何らかの理由で支援対象者が移動した場合も、スタッフ間で引き継ぎが出来るようになりました。



PRISM: 衛星からのモンゴルの情報を集約したダッシュボード

気象災害の情報をリアルタイムに取得「PRISM」

昨今の気候変動や頻発する気象災害の影響、被災者や被災リスクの高い場所に住む人々の情報を、リアルタイムで取得することは難しい状況でした。

「PRISM」では衛星等の遠隔探査による情報を地図に落とし込み、被害状況などを容易に把握できるようにしました。これで緊急度に応じて、支援を急ぐ場所の優先順位付けが出来るようになりました。インドネシア、カンボジア、モンゴルなどで稼働を開始しています。

干ばつに打ち勝つ水耕栽培の技術「H2Grow」

一方気候変動は干ばつも深刻化させています。影響が深刻な地域や砂漠地帯では農作物の生産が困難になっています。

水耕栽培の技術を用いた「H2Grow」では、砂漠や乾燥地域の難民キャンプにおいて、農作物の育成を可能にしています。これにより、難民の人々の食料、そして飼育する動物の飼料を生産することが出来るようになり、食料供給の自立と、地域経済の復興に一役を買っています。



© WFP

H2GROW: 干ばつが深刻なサヘル地域・チャドでの栽培の様子

皆さまの手のひらにも「ShareTheMeal」

スマートフォンをタップして簡単に食事を寄付することが出来るアプリ「ShareTheMeal」も、「スケールアップ・プロジェクト」の成果の1つです。既に数百万人が利用し、2020年のアップル・グーグル両方のベストアプリに選ばれました。今年2021年から日本でも本格的に展開をいたします。

詳しくは次のページをご覧ください。



© WFP/Kirstyn Allen

© WFP/Kirstyn Allen

CODA: コンゴ民主共和国での母子栄養支援の現場にて。右の写真に写っているのがSCOPEカード

ShareTheMeal シェア・ザ・ミール

スマホ画面を1回タップするだけで、お腹をすかせた子どもたちと「食事をシェア」。それがShareTheMeal。1人の子ども1日分85円から、世界中に簡単に食料を届けることができます。

アップル「ベスト・オブ・2020*」

グーグル「ベスト・アプリ・2020**」ダブル受賞！

あなたも一緒にお手軽に、飢餓のない世界をめざす活動に参加しませんか？

*Apple: Best of 2020 "Trend of the Year: Making a Difference" category

**Google: Best apps of 2020 "App for Good" category

<https://sharethemeal.org/ja/>

これまで FOODeliver からのご支援ありがとうございました。今後アプリでのご寄付はShareTheMealをご利用ください。ShareTheMeal からのご寄付では領収書は発行されません。あらかじめご了承ください。

ShareTheMeal



Available on the App Store

Google Play
で手に入れよう

身近にできる国連WFP支援 レッドカップキャンペーン

(株) あじかん、(株) 大井川茶園、東亜道路工業(株) が新たに参加しました。売り上げの一部は学校給食支援に寄付されます。

<https://www.jawfp.org/redcup/>



飢餓から救う。
未来を救う。
WFP
国連世界食糧計画

株式会社あじかん



機能性表示食品
国産焙煎ごぼう茶
28包

株式会社大井川茶園



カートカン
癒しの禅
静岡抹茶入り
緑茶 195g

東亜道路工業株式会社



固まる
アスファルト・
ゴールドパー
ミックス



THE 2020
NOBEL
PEACE
PRIZE
LAUREATE

国連WFP

<https://ja.wfp.org>

0120-496-819

受付時間 9:00 ~ 18:00
(通話料無料・年始を除く年中無休)

国連WFPは「飢餓をゼロに」の実現を通して、SDGsのさまざまな目標の達成に貢献しています。



貢献する SDGs の一例



ご寄付はこちら



WFP.JP



WFP_JP



wfp_japanoffice



WFPJapanOffice



メルマガ登録

